

巻 頭 言

京都市立病院紀要 44 巻をお届けいたします。本 44 巻には第 20 回院内合同研究発表会 1 編と、第 21 回院内合同研究発表会 9 編、第 36 回と第 37 回の地域医療フォーラムの内容、そして診療科から 1 編の総説と 1 編の症例報告が掲載されていますのでぜひご一読ください。

去年は、元旦に能登半島地震、2 日に自衛隊機と民間機の衝突事故と波乱に満ちた年の初めでしたが、今年は、幸い国内に大きな災害や事故もなく、おだやかな年末年始であったかと思います。ただ、インフルエンザが猛威を振るい、救急外来に発熱患者が押し寄せ、現場対応して頂いた職員の皆さんには負担をおかけしました。改めてお礼を申し上げます。

国外に目を移すと、中東では、やっとイスラエルとハマスの休戦協定が結ばれましたが、永久的な停戦になるにはまだまだいくつものハードルがあるようですし、その合意もいつ何時破られるかもしれないという不安定な状況は続いています。ロシアによるウクライナ侵攻は 3 年以上経過した現在もなお続いており、ロシア側には第 3 国が人的な武力供与を開始するなど、さらに混迷を深めています。最近返り咲いた米国大統領は、「半年で戦争を終わらせる」と強気な発言をしていますが、世界のオピニオンリーダーとなるべき国の元首が「自国が一番優先」と叫んで政治をするなら、もはや世界の平和など望むべくもないのかもしれません。

国内では、いよいよこの 2024 年度から、医師の時間外労働の上限規制が始まりました。今のところ、規制による大きな問題は聞こえてきませんが、医療界に乱発された宿日直許可の揺り戻しが来ないとも限りません。うわべだけの改革ではなく、本当の意味での働き方改革を進めていく事が重要です。当院でも DX の導入に加え、タスクシフトやタスクシェアもさらに推進する必要がありますが、そのためには、ますます職種間の連携、協働が重要になります。全職員それぞれが、お互いを思いやり、高い意識を持って、積極的に取り組んでいただける事を期待しています。また、その成果について本紀要への投稿もよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、執筆、校正、編集に携わっていただいた皆さんに深謝いたします。

2025 年 1 月

京都市立病院機構京都市立病院

院長 黒 田 啓 史